

ふるさとまつり



昨年11月13日、好天の中、第6回豊後大野市「ふるさとまつり」秋の大収穫祭が大原総合体育館周辺特設会場で開催され、歌謡ショーなどのステージイベントや農産物・加工品の販売等が行われました。

農業委員会も前回に引き続き、会場にコーナーを設け、事業関連の啓発パンフレットとあわせて、委員が市内で収穫したお米でつくったポン菓子を、午前と午後2回に分けて無料配布、おかげさまで行列のできるほど好評でした。

現在、農業を取りまく環境は厳しく、例えば耕作放棄地の増加、担い手不足、鳥獣被害、TPP交渉の方向性等、数々の諸問題を抱えています。農業委員会では、こういった問題点を捉え、立案対策を立てています。また会場での農業に関する相談や意見等を取り入れ、未来のある農業経営を構築していかなければならないと思っています。

今後も農業発展のため、農業者と農業委員会が良きパートナーとして、健康で明るい農村を築いていきましょう。(O・M)

農業者年金は

積立年金

安心して豊かな老後のために 農業者年金に加入しましょう

農業者年金加入条件

次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- ① 60歳未満の方
- ② 年間60日以上農業に従事(配偶者・後継者も可)
- ③ 国民年金第1号被保険者



編集後記

日本農業は何処に向かって行くのだろうか、何時になったら安心して農作業に専念でき、安定した所得が得られるのだろうか、そんな思いがまっただらうか、今年も作付けが始まった。農政も気象も農業者の事にはお構いなく更には収穫間近の農産物は鳥獣害で荒らされ、収穫の喜びさえも与えてくれない。こうした苦悩が続く中で政府は「農業者の所得増大や日本農業を強くするため」と、農業団体の大改革を行い、一方では自由貿易を推し進めているが、政府の威勢のいい説明を鵝呑みにする農業者はまずいない。

日本農業新聞のきょうの言葉という欄に「農漁業とは、一朝一夕に変えてしまえるほど甘い仕事ではありませんが、(佐藤喜作)という記事が掲載されていましたが、まさにその通りだと思ふ。安定した所得が確保できれば後継者も育つ、後継者が確保できれば農地は荒廃せず地域も崩壊しない。持続可能な農業に取り組み始める。そんな思いを抱きながらちよっと一服。

私達の任期も残すところ3ヶ月となりました。読みやすい紙面と委員長の「四角い紙面を丸い心で」という想いの中、編集委員全員で6回にわたり発行してきました。紙面を作成するに当りご協力頂いた皆様により感謝申し上げます。(T・A)

第16号編集委員

委員

- 安藤哲生・曲修
- 進藤充啓・河野広一
- 甲斐和幸・後藤京子